

## データセンターあとかき

2014年1月に「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」が施行され、これに基づき日本造血細胞移植データセンター（JDCHCT）が「造血幹細胞移植の患者やドナー情報の収集・分析」を国の支援のもと担うこととなり、3年が経過しました。今年度は、2015年1月にリリースした第二世代移植登録一元管理プログラム（TRUMP2）の、運用2年目であり、全国の300を超える移植診療科での導入および運用が安定して行われたことは、大きな成果でした。新しいシステムの導入と対応は、容易なことではありませんが、多くの施設において迅速に、また丁寧に対応くださいましたことに、深くお礼申し上げます。TRUMP2は、造血細胞移植アウトカムデータをオンライン一元管理することを目的として開発されたWebデータベースです。第一世代TRUMPにて課題とされていた非血縁者間移植における日本骨髄バンクや臍帯血バンクが管理する患者・ドナーのHLAや輸注細胞数情報等をオンラインデータ連携することで、施設における入力の手間を軽減するとともにデータの質の向上が期待されます。入力データの質管理は、緻密な作業ではありますが、JDCHCTでは、今後さらにデータの質の向上につなげられるよう努力してまいりたいと存じます。

データ利用申請件数は増加、また多様化してきています。データ収集と管理およびデータの利用管理を担うJDCHCT造血細胞移植登録一元管理委員会、JSHCTワーキンググループ（WG）の運営とWGが実施する研究を管理するJSHCT造血細胞移植登録一元管理委員会の役割はより大きくなってきています。委員長、委員の方々にはこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植で収集された患者・ドナーの試料の研究目的での利用申請も含めてここで申請を受け、審議することとなりこの3月には申請受け付けを開始することとなりました。

JSHCTワーキンググループ（WG）および、そのほかデータ利用申請による、TRUMPデータを用いた研究活動性の高さは、巻末のWG活動報告書や業績一覧でよくわかります。日本発の、TRUMPデータを用いた解析結果が多く出るようになり、これらが次の移植医療に反映されていく現状を踏まえましても、その質の担保にさらに力を入れていく責務を感じております。JDCHCTでは、データ収集・管理の質の向上に今後も取り組んでまいります。どうか引き続きご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

日本造血細胞移植データセンター	センター長	熱田由子
	システム担当	坪井秀樹、池田正博、浅野充洋
	データ解析担当	倉田美穂、柳澤昌実
	データマネージャー	伊藤千佳、米山結美、日沖友美
		中尾有佳里、松原奈津希
	事務局	松原有希、山田達也